

「先生のための経済教室（沖縄）」 記録

1. 日時：2018年1月6日（土）13時00分～17時00分

2. 場所：沖縄県立博物館・美術館の美術館講座室

3. 主な内容

午前中は曇りの天気であったが次第に晴れ、44名の参加者のもと、経済教室が開催された。

（1）次期学習指導要領の下での金融教育

講師：大杉昭英氏

- ・初来沖は20歳の頃。ジーンズにサンダル姿で、何の連絡もせず、中学校の授業を見学させたもらったあと、校長先生に昼食をごちそうになった経験などの自己紹介のあと、今回のテーマは①指導要領の改訂の背景と何を求めているのか、②そこから、どういう学びが求められているのかという2段階または3段階の話をすることを予告された。
- ・大杉氏は千葉県から一ツ橋に通勤しており、通勤途中、学習塾の看板に〇〇中学校入試問題の表示を見かけることを紹介した。
問いがあって答えは「こう」と正解するだけでなく、問題をどういう手続きで解いていくかを考える例題として、空港名は明記していない羽田空港と釧路空港、山口宇部空港、佐賀空港とを結ぶ定期旅客便の時刻表の資料から、釧路空港の時刻表を選び、選んだ理由を考え、近隣の席の2～3名で各自考えたことを共有した。その後、新しい時代への対応として、中央教育審議会への諮問（H26.11）内容、キーコンピテンシー、PISA型の読解力について解説された。教材の例として、小学校6年生の歴史で、古代・中世・近世の文化学習の最後のまとめとして行われた実践から自然林の割合が低いところ、焼き物（窯業）、文化といろいろな知識を結びつけて考える実践例を取り上げた。
- ・資質・能力の三つの柱に、①「何を理解しているか、何ができるか」②「理解していること・できることをどう使うか」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」があること、自転車の乗り方の説明を聞いただけで、すぐ自転車に乗れるわけではないことと同様に、考える能力はそれを働かせる学習活動の中で育つことから、アクティブ・ラーニングの必要性を解説された。
- ・「深い学び」の実現のためには、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」と知識・技能と能力が必要なこと、活用する力を育成するための事例として、大学生が考えた効率化の例と震災時にシュークリームを避難者に届けたいが、提供予定個数よりも避難者が多い場合の分け方を例に解説された。
「学んだ知識を自分の生活や社会のあり方にどう使っていくか、役立てていくか」が本日のテーマの主旨であるとまとめられた。

（2）経済から地理を学ぶ

～うそっ！ホント！沖縄ネタからディープラーニングまで～

講師：河原 和之氏

- ・これまでの経歴、著書、新婚旅行で沖縄を訪れたとの自己紹介のあと、大杉氏のテーマの主旨の実践例として、東海道本線の車体の色（オレンジ・緑が静岡の特産品をあらわしている）、大阪・難波で見たニューカレドニアに関連した

- キャッチコピー、景観保護のための高層ビルの高さ（近畿地方の7県で県によって異なる）など数例を紹介された。
- ・地理と経済の融合教材（農業学習の事例）として、くまモンの頬の赤色が意味するもの（トマト、スイカ）を考えさせたり、沖縄本島北部の今帰仁村^{なまきじんそん}でスイカの出荷がピークを迎えた5月に新聞に掲載された記事の見出しが「一度でいいから『 』でスイカを食べてみたかった！」の空欄に入る語（こたつ）を考え、促成栽培や希少性から考える事例を紹介した。
 - ・沖縄県の農業産出額推移の統計をもとに、減ってきたパイナップルと増えてきた小ギクの変化の理由を考え、学習指導要領との関連で見方・考え方を解説された。また、魚沼産コシヒカリがなぜ美味しいかの米づくりの条件の一つとして、魚沼では米を干す際に、穂を逆さにして干すと甘みが増すことからリフトを使用している様子が写真で紹介された。沖縄にはスキー場がなく、まったく予想できなかった。
 - ・工業学習の事例（自動車産業）については、時間の関係で割愛された。
 - ・「教科書に見る沖縄～自然環境を中核とした九州地方～」の紹介のあと、クイズで考える沖縄として10問取り上げられた。特に、シーチキンフレークの消費量が全国1位で、全国で唯一、箱入りで販売されているという解説については、多くの家庭で複数缶常備していたり、チラシにも1缶の価格だけでなく、ケース販売での価格が併記されていることも日々目にするため、参加者も驚いていた。その後、沖縄県の特色を農畜産業、昆布消費量が多い理由、長寿県の変化、第二次産業が育たなかった要因、コールセンターの現状とその影響など数点にまとめ、解説された。第二次産業が育たなかった要因の一つとして、沖縄は1945年から1972年までアメリカの占領下であり、本土の高度経済成長とは無縁であったこと、1ドル=360円時代による円安による輸出増加の恩恵をえることもなかったこと、1973年以降はオイルショックの影響を受けたことなどを補足された。
 - ・沖縄の未来（ジグソー学習）のテーマに、①人口が増加する地域 ②東アジア中心 ③豊かな観光資源 ④将来的な沖縄基地返還による開発利益をあげ、その解説と学生が考えたプレゼンテーションが紹介され、急速に発展する沖縄の道路整備や沖縄県への「ふるさと納税」の現状についても補足された。

(3) 経済から歴史を学ぶ

～大恐慌から第二次世界大戦まで～

講師：篠原 総一氏

内容については夏の経済教室の記録（2017年8月14日4講目）

<http://www.econ-edu.net/activity/2017%20summer%20seminar/20170814TokyoHig%20.pdf>

を参照されたい。

今回の経済教室には、小中高と異なる校種や教科も社会、地理歴史、公民だけでなく、商業や家庭科の教員も参加したことで、他校種・他教科共に学ぶ貴重な機会となった。また、すぐ授業で実践できること、今回知ったことで今後の授業を深化させていける内容など充実しており、参加者は多くの学びを得ることができたと感じる。

終了後、複数の参加者から時間の関係で割愛せざるを得なかった内容も是非聞きたかったとの感想や夏休み経済教室の概要、今回沖縄で開催された経緯や今後の開催予定についての質問もあった。